

平成27年度 あきたスマートカレッジ (報告)

R : 発掘！考古ゼミ

連携機関：県埋蔵文化財センター

会場：秋田県生涯学習センター4階 第1研修室

【趣旨】県内遺跡の最新の発掘情報から考古について学ぶことができる講座です。専門スタッフが、悠久の歴史ロマンの世界にいざないます！

回	期 日	テーマ	講 師	参加者数
1	11月13日 (金)	土偶はなぜ腕を下ろしたか？	所 長 小 林 克 氏	35
2	11月20日 (金)	発掘調査速報① 大館市片貝遺跡	中央調査班 副主幹 宇田川 浩一 氏	34
3	11月27日 (金)	発掘調査速報② 東成瀬村トクラ遺跡	調査班 文化財主査 加藤 朋夏 氏	36
4	12月4日 (金)	十和田火山噴火1,100年 火山災害と古代集落の復興	資料管理活用班 班文化財専門員 高橋 学 氏	60
合計				165名

考古学的话题と、最新の発掘調査結果についてお話いただきました。ここでは1回目の講座について報告します。



縄文時代中期までの土偶は、長野・神奈川などの中部地方を中心に出土し、腕を上げるか、水平に短く伸ばす『バンザイ型』が特徴です。それに対して、縄文晩期の土偶は、岩手中心の東北と茨城・千葉中心の関東に二極化した形で出土し、手脚が長くなってかぎ状に垂らす『垂らし型』へと変化します。この変化の理由を明確に説明することはできませんが、一つの可能性を提示することができます。実際の変化は、土偶に限らず、当時の土器の人体文様などにも

共通して見られることでした。加えて、日本だけに見られることではなく、中国大陸の土器文様やバイカル湖北側に住むケット人の太鼓の文様などにも見られます。このことから、大陸から日本北方地域に『垂らし型』の意匠が伝播してきた可能性を考えることができます。まさに考古学のロマンを感じさせるお話でした。